

年 賀 状

杜 陵 胖

来ては困るし、来なければ寂しいのが年賀状である。毎年暮れになると年賀状が問題になる。昨年の暮も新生活運動と称して年賀状の廃止や自粛が申合された。然しそれが決った様に年賀状の売り出しが始まって、大半の人が買ってしまった頃に言い出されるので買った人は今更返すわけにもいかず、印刷した年賀状をそのまま知人に出してしまうのである。

年賀状に対する功罪論は相半ばしているようである。賛成論者にも否定論者にも、それぞれの理屈はあるし、支持者もあるわけである。然し遠くに居る知人友人達の年1回の便り位そんなに喧しく言う必要も無い様に思うのである。近くの人で何時も顔を合せている様な人迄が如何にも、もったいらしく年賀状を出したりするから問題になるのである。中には毎日顔を合せているのにことさら書いたり、正月には当然顔を合せることが判っているのに出したりする人があるので、そんな無駄に対して自粛が叫ばれるのであって、何も遠くに居る人に出すの迄遠慮する必要は無い様に思うのである。

ところで皮肉屋の一教師から次の様な端書が来た。謹賀新年、元旦と書いた後へ、「新生活運動につき年賀状は出しません」とある。こういうことになるとこの端書はどう解釈していいのか判らなくなる。お年玉つき年賀用のものであるから一応賀状としては取扱ってみても、何か後味の悪いものである。

郵政省はこのはがきで儲け、プラス1円のお年玉で子供達の他に社会事業団体やその他の人々が喜ぶとすれば、年1回の5円は安いものであるような気がする。

国なり県なりで行っている新生活運動は役人だけに通用するものであって、郵政省とは関係の無

い運動であるのかも知れない。そうであるとすれば又何をか言わんやである。

子供達は手紙を書く時には返事が当然来るものと期待しているらしい。だから返事が来なければブツ言っている。

小学校2年生の坊主が受持ちの先生に賀状を出したところ折返しに印刷した先生の賀状が来た。坊主は当然の様な顔をしながら、それでもうれしいとみえてそのはがきを持って大喜びである。ところがしばらくして「お父ちゃんおめでたうって何んのことだ」と言う。あそうか、この子供達は新仮名使いで「おめでとう」と書かなければ判らないのである。「それはおめでとうだよ」と言ってやると「ワーイ先生が間違えているよ」と鬼の首でも取った様なさわざである。そう思ってよく見れば「おめでたう、こんねんもしっかりべんきょうしませう。」となっている。この「せ」も間違いである。先生にしては新年早々大きなミスである。先生原稿が間違っていたのか、印刷屋が勝手に直したのか知らないが、とんだことになってしまった。この問題は方々で話題になったらしいが、新学期早々先生の訂正で落ち着いたが、それにしても新かなつかいとは厄介なものではある。常に原稿でも書いている人なら新かなつかいも判るが、戦前の教育を受けた者はどうもこの点苦手である。手紙なども新旧を比べてみれば、旧の方が多い位である。メートルの使用と同様に完全に新に代ってしまうまでには相当の年を必要とすることであろう。

年賀状が一番困るのはイタチゴッコである。毎年出す所はこちらの方でもそのつもりで差出すが、都合で御無沙汰しておく、その様な人に限って先方から貰うので、御無礼を謝して御返事を書く始末になる。昨年御無礼をしたからと思って今年は書いて

岡山畜産便り1957.01

おくと、先方からは来ないので、名簿の整理の時にはつい落とす、そうすると又翌年は先方から来て此方が出していない。この様なのが毎年相当数になるので、これには閉口である。

年賀状の種類も種々雑多である。筆で書いたもの、印刷したもの、ゴム印で押したもの、版画でこったもの、それぞれその人の個性を出していて面白いものである。年賀状と言えば平素あまり筆を持たない人でも毛筆で丁寧に書いて来る人が多い。勿論これにこしたことは無いが、悪筆の吾々にとってはこれが又苦の種である。ついペンで御無礼してしまうが、実際的に毛筆を使うことの少くなったこの頃であるのでペンで御容赦願いたいものである。

私の知人は年賀状を一切出さないが、半月程おくれて、貰った人に近況を書いた時候の挨拶状を出す人がある。これ等も一寸面白い行き方で貰った方も悪い心はしない。謹賀新年だけ印刷した年賀状より、余程誠意があって良い様な気がする。

ともあれ、年末年始はこの年賀状で一苦労さされるのである。従ってこんな駄文も出て来るわけである。悪口を言われぬ間にこの辺で筆を納めることにする。